

各 位

会 社 名 マルシェ 株式会社
 代表者名 代表取締役社長 谷垣 雅之
 (コード番号 7524 東証・大証第一部)
 問合せ先 取締役管理本部長 川角 茂樹
 (TEL 06-6624-8100)

**平成20年3月期 特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩し
 並びに業績予想の修正に関するお知らせ**

平成20年3月期末決算において、下記の通り特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを行いますのでその概要をお知らせすると共に、平成19年11月12日の中間決算発表時に公表いたしました平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の通期(連結及び個別)の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1.特別損失の計上

当社及び当社グループ会社に内在する経営上のリスク要因を抽出し再検討した結果、下記の特別損失を計上いたします。

【連結】

(1)減損損失

当社及び関係会社の営業店舗に対し、将来キャッシュ・フローの見積りを厳格に行い、業態変更による効果も保守的に判断し、減損損失を上積みいたします。

また、子会社で進めております野菜の水耕栽培事業は、現在共同事業者との協議によりプラント建設工事を一時中断しております。そのことに因り、プラントに対する投資額の回収時期が遅れる可能性が高いため、保守的に将来キャッシュ・フローを見積もるのが困難と判断し、これまでのプラントの建設資金等、投資額に対し減損損失を計上いたします。

(2)のれん償却額

関係会社(株)ノモスの当期の業績より、超過収益力の見積りを再検討した結果、ノモス株式取得時に発生したのれんについて減損を行い、のれん償却額として計上いたします。

連結決算においては、総額1,350百万円の特別損失を計上いたします。なお、中間決算時においては388百万円の特別損失を計上しておりましたので、当連結会計年度末決算においては962百万円の追加計上を行うこととなります。

【個別】

(1)減損損失

当社の営業店舗に対し、将来キャッシュ・フローの見積りを厳格に行い、業態変更による効果も保守的に判断し、減損損失を上積みいたします。

(2)関係会社株式評価損

関係会社株式の評価を見直し、関係会社株式評価損を計上いたします。

(3)貸倒引当金繰入額

関係会社への貸付金の回収可能性を検討し、貸倒引当金繰入額を計上いたします。

個別決算においては、総額1,534百万円の特別損失を計上いたします。なお、中間決算時においては329百万円の特別損失を計上しておりましたので、当会計年度末決算においては1,205百万円の追加計上を行うこととなります。

【下期において追加計上した主な特別損失の連結・個別に与える影響額】

(単位:百万円)

	連 結	個 別
減損損失	697	307
貸倒引当金繰入額	56	816
関係会社株式評価損	—	10
のれん償却額	114	—

2.繰延税金資産の取崩し

【 連結・個別 】

当社店舗用土地に関し発生した減損損失に係る繰延税金資産について来期以降の事業計画に基づき回収可能性を検討した結果、店舗用土地の減損部分に対応する繰延税金資産222百万円を取崩し、法人税等調整額に計上いたします。

3.連結業績予想数値の修正

通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	19,000	950	950	150
今回発表予想(B)	18,500	660	680	△ 900
増減額(B-A)	△ 500	△ 290	△ 270	△ 1,050
増減率	△ 2.6	△ 30.5	△ 28.4	-
(ご参考)前通期(平成19年3月期)実績	19,784	1,009	1,026	334

4.個別業績予想数値の修正

通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	18,500	1,000	1,000	250
今回発表予想(B)	18,100	710	730	△ 730
増減額(B-A)	△ 400	△ 290	△ 270	△ 980
増減率	△ 2.2	△ 29.0	△ 27.0	-
(ご参考)前通期(平成19年3月期)実績	19,474	1,094	1,113	417

5.修正理由

(1) 個別業績予想

厳しい企業間競争や個人消費の低迷に加え、消費者の食の安全に対する不安感など、外食市場を取巻くマイナス要因などの影響もあり、売上高が計画に対し未達となりました。

売上高減少に伴い、営業利益、経常利益のいずれも前回発表予想を下回る見込であります。

さらに上記1.2に記載の通り、営業店舗の減損損失、関係会社に対する株式評価損および貸倒引当金繰入額を特別損失として計上することとなった事や、繰延税金資産を取崩し、法人税等調整額を計上することにより、当期純利益が前回発表予想を大幅に下回る見込であります。

(2) 連結業績予想

連結業績予想におきましても同様の理由により、売上高、営業利益、経常利益のいずれも前回発表予想を下回る見込であります。

さらに上記1.2に記載の通り、営業店舗およびのれんの減損損失を特別損失として計上することとなった事や、繰延税金資産を取崩し、法人税等調整額を計上することにより、当期純利益が前回発表予想を大幅に下回る見込であります。

6. その他

今回このような損失処理をすることとなり、株主の皆様にはご心配をおかけいたしますが、一過性の特別損失処理を主な要因とした減益予想であることから、期末配当につきましては前回発表の通り、一株につき12円(年間24円)を予定しております。

<業績予想に関する注意事項>

当資料に記載されている業績見通しに関する記述は、当社グループにおいて現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績については様々な要素により、これら業績予想と異なる結果となる可能性があります。

以上